

平成25年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校国語】

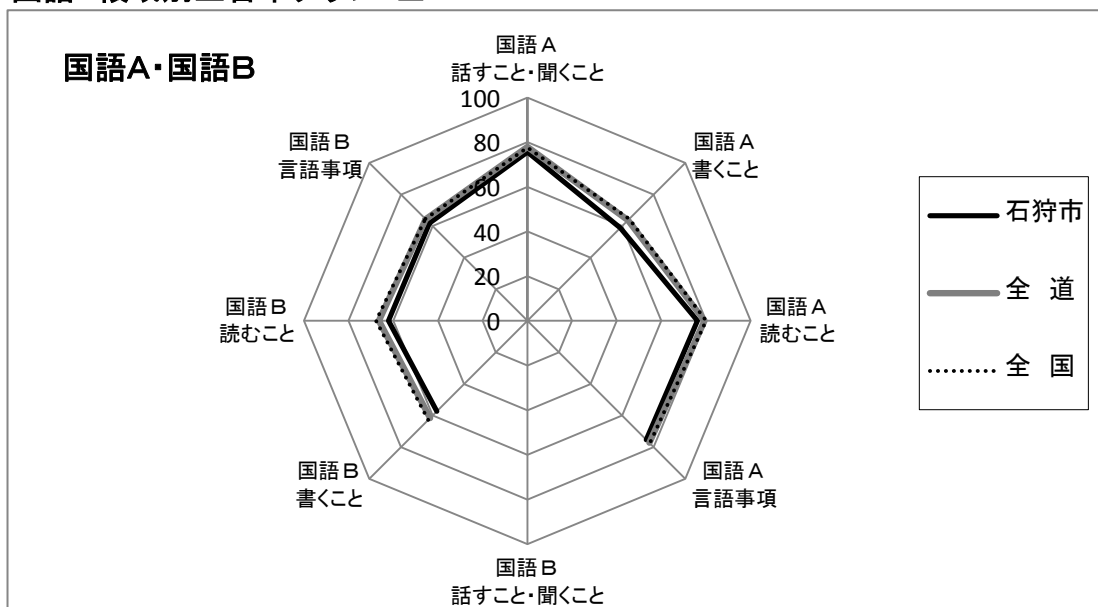
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	24.4問/32問	76.4%	6.1問/9問	67.4%
全道(公立)	24.3問/32問	76.0%	6.0問/9問	66.2%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位同様)	同様	ほぼ同様 (下位同様)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位同様)	同様	ほぼ同様 (下位同様)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 ; ○ 全国 ; ☆					★	○								★				

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様 … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様 … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域別正答率グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 漢字・語句等はほぼ定着しており、日常的に活用に努めることが必要です。
- 無回答率は全道・全国とほぼ同様です。
- 順序立てて考え、相手の立場に立ってわかりやすく説明することが課題です。
- 考えを整理し、適切な表現で書くことが課題です。

国語 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する定着度をみる問題で構成されています。各問題は出題の趣旨が学習指導要領の指導事項に対応することが基本とされています。

- ・話し合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する。
- ・出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く。
- ・前日までに申込みをしなくても中学生が参加できる講座番号を選択する。
- ・「かすみ」「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す。

設問数は32問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は全道・全国とほぼ同様です。
- ・「書くこと」の領域は全道よりやや低く、全国より低い結果で課題があります。
- ・「読むこと」の領域は全道・全国よりやや低く、課題があります。
- ・[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]のうち、基本的な漢字の「書き」については全道・全国と同様です。「読み」については全道・全国とほぼ同様です。
- ・[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]に関しては、全道・全国とほぼ同様です。日常的に使用頻度が高い語句は意味を理解し適切に使えます。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨		設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	1二	司会の役割を果たす	話し合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する	56.0%	57.5%	54.7%
漢字の 読み 書き	8一	漢字を書く	2 「キントウ」 (均等)	58.0%	55.9%	59.3%
			3 「オビ」 (帯)	68.8%	67.4%	66.7%
	8二	漢字を読む	3 「連なる」 (ツラ-なる)	89.6%	89.7%	89.4%
語句と 活用	8三	理解と活用	エ 二の足を踏む	85.4%	86.0%	84.8%
	8五	文脈と敬語	2 適切な敬語を選択する	91.6%	91.5%	91.3%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨		設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	6二	論理的構成や展開を考えて話す	使用する言葉の組み合わせの適切なものを選択する	74.1%	79.4%	80.7%
書くこと	7一	伝えたい事柄を明確にして書く	比較の対象が明確に分かるように書く	67.5%	72.2%	73.6%
読むこと	4二	必要な情報の読み取り	中学生が参加できる講座の選択	65.9%	69.8%	70.1%
漢字読み	8二	正しく読む	2 社会を風刺(ふうし)する	64.7%	74.1%	70.6%
語句と 活用	8六	修飾・被修飾	「すさまじい」と修飾・被修飾	67.9%	70.7%	73.4%
	8七2	仮名遣いの変更	(にほふ)を現代仮名遣いに直す	76.3%	82.8%	83.4%

〈指導の改善にあたって〉

- ・学習した漢字を各教科等の学習や日常の活動等で意図的に活用するなど、定着のための機会を意図的に設定する必要があります。
- ・漢字・語句等を正確に読み書きさせるだけでなく、用法を正確に理解し文脈に即して活用することができるよう、さらに繰り返し指導に努める必要があります。
- ・目的や意図、場、相手に応じて、適切にわかりやすく文章を書くことの指導に努める必要があります。
- ・日常生活の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えたり相手の立場に立ってわかりやすく説明することの指導に努める必要があります。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題で構成されています。領域が重複し、応用・発展した出題になっています。

- ・分かったことを基に、さらに調べたいことと調べる方法を具体的に書く。
 - ・文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く。
 - ・間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを、漢字の特徴を取り上げて説明する。
- 設問数は9問です。

- ・「書くこと」「読むこと」の領域では、全道よりやや低く、全国より低い結果です。
- ・[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]は全道・全国とほぼ同様です。

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
書くこと 読むこと	2三 根拠を明確にして書く	文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く	58.7%	64.4%	65.7%
書くこと 言語文化	3三 自分の考えを具体的に書く	漢字学習の注意点やコツを特徴を取り上げ説明する	62.0%	64.4%	64.6%
読むこと	1一 段落の関係理解と文章展開	段落相互の関係で適切なものを選択	68.3%	70.3%	71.7%
	2二 表現の仕方とその効果	表現の効果の説明の選択	71.9%	74.4%	75.6%
	3二 情報の関連の読み取り	参考資料の読み取りと選択	64.2%	68.0%	70.2%

〈指導の改善にあたって〉

- ・自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう、作成した資料を見直し、聞き手の立場に立って組み替えてみたり、相互評価したりするなど、継続して指導に努めることが大切です。
- ・発展的な問題が多い中で、複数の情報を吟味し、必要なものを選び取ることに課題が残ります。基礎的知識の充実とともに、共通点や相違点をまとめるなど情報を整理したり、順序立てた考え方や多面的な見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努める必要があります。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 59.3%、全国の 57.7% に対して石狩市は 61.5% で、全道に比べ 2.2%、全国に比べて3.8%高い結果が出ています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の 87.4%、全国の 88.4% に対して石狩市は 89.1%で、全道に比べ 1.7%、全国に比べ0.7%高くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の 72.0%、全国の 71.9% に対して石狩市は 72.8% と、全道に比べ 0.8%、全国に比べ0.9%高くなっています。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の 74.5%、全国の 70.1% に対して石狩市は 74.1%で、全道に比べ 0.4% 低く、全国に比べ4.0%高くなっています。
- ・国語の授業中の質問に関して、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「文章を読むとき、段落や話のまとめりとともに内容を理解しながら読んでいますか」の各設問の肯定的な回答率は、いずれも全道・全国と同様の回答となっています。
- ・無解答率は全道とほぼ同様ですが、全国よりやや高い傾向にあります。

平成25年度 全国学力学習状況調査 結果分析

【中学校数学】

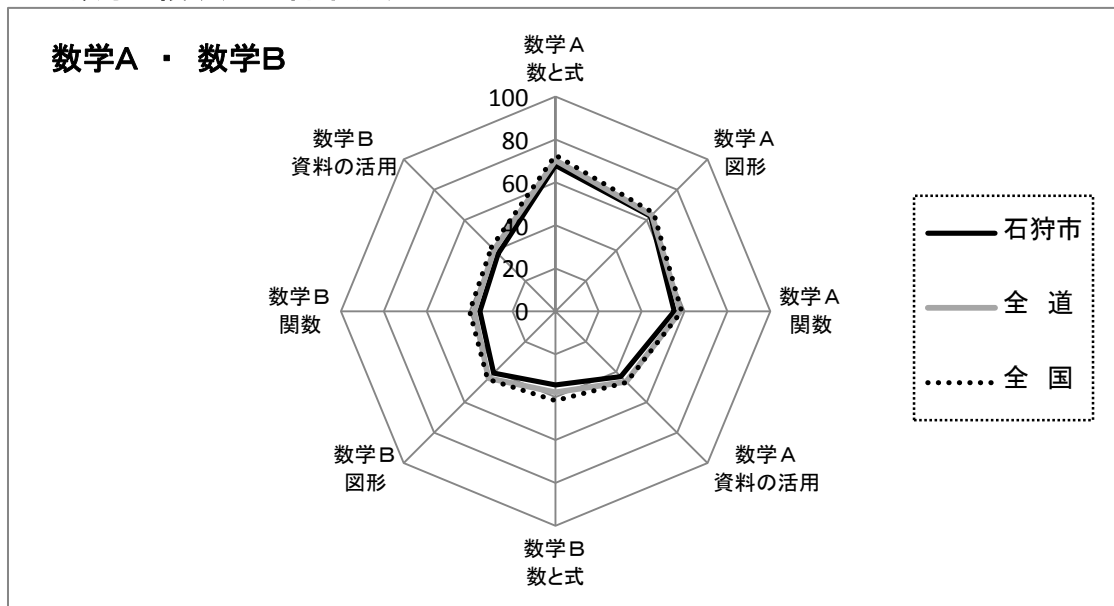
□ 正答率の状況 □

	数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	22.9問/36問	62.1%	6.6問/16問	41.5%
全道(公立)	22.4問/36問	60.0%	6.3問/16問	39.1%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様 (上位)	同様	ほぼ同様 (下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 ; ○ 全国 ; ☆				☆		○							☆		○		

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

□ 数学 領域別正答率グラフ □



□ 数学科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 図形など、具体的事象に関する知識理解は全道と同様、全国とほぼ同様です。
- 基礎的・基本的事項の日常的な反復に課題があります。
- 基礎的知識の連携、資料の読み取り、論理的な思考に課題があります。
- [活用]に関しての無回答率がやや高く、粘り強く取り組むことに課題があります。

数学 A (主として「知識」に関する問題)

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能の定着度をみる問題です。

- ・正の数と負の数とその計算、文字式の計算をする。一元一次方程式を解く。
- ・用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、適切な記述を選ぶ。
- ・事象から一次関数の式を求める。
- ・平均値に関して、適切な記述を選ぶ。事象の起こる確率を求める。

設問数は36問です。

- ・「数と式」の基本的な文字式や方程式の計算や解き方は全道・全国とほぼ同様です。
- ・「図形」の具体的事象など、基礎的・基本的な知識理解は全道・全国と同様です。
- ・「関数」の領域は、全道・全国とほぼ同様です。文字式、等式の変形、関数の数値の変化、 x と y の関係を式で表すなど、基礎・基本事項は理解されています。
- ・「資料の活用」の領域は、全道・全国よりやや低い結果です。数学で使われる言葉の意味や、文章・図の読み取りに課題があります。
- ・無解答率が高く課題です。

【成果の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と式	2 (1) 整数の加法減法の計算	$2(5x+9y)-5(2x+3y)$ を計算	79.3%	77.8%	81.7%
図形	4 (1) 拡大図をかくことができる	長方形の2倍の拡大図をかく	88.1%	86.5%	88.4%
図形	7 (1) 三角形の合同条件	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	81.2%	78.9%	79.2%
関数	12 $y=ax+b$ の式で表す	一次関数の事象を式で表す	54.3%	53.5%	54.3%

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
数と式	1 (2) ()を含む数の計算ができる	$5 \times (4-7)$ を計算する	78.7%	83.4%	87.5%
数と式	1 (4) 正負の数の意味の理解	東京の時刻を基準に、カイロとの時差を表す	59.3%	62.0%	64.8%
図形	4 (3) 回転移動	三角形を回転移動したときの回転角を求める	53.9%	54.2%	56.0%
関数	10 (1) 点を2つの数の組で表す	座標平面上の点の座標を求める	74.3%	77.2%	78.9%
関数	11 (1) x に対応する y の値を求める	$y=2x-1$ について、 x の値が3のときの y の値を求める	73.3%	79.1%	81.9%

【無答率の高い設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市		全道		全国	
			正答率	無答率	正答率	無答率	正答率	無答率
資料の活用	14 (2) 相対度数を求める	最高気温を表したヒストグラムから相対度数を求める	17.0%	36.2%	24.5%	27.5%	22.8%	25.1%
資料の活用	15 (2) 確率を求める	2つのさいころの目が両方も1になる確率を求める	52.1%	21.5%	52.7%	15.5%	53.8%	12.9%

〈指導の改善にあたって〉

・基礎的・基本的事項の習熟には日常的に繰り返すことが必須です。意識的・計画的に演習するなど、反復して定着に努めることが大切です。

数学 B（主として「活用」に関する問題）

数量や図形についての知識・技能などを活用する能力をみる問題です。

- ・安静時心拍数が一定であるときの目標心拍数の変わり方を選び、その理由を説明する。
- ・表やグラフを用いて、水温が80℃になるまでかかる時間を求める方法を説明する。
- ・ヒストグラムの特徴を基に、生徒が美しいと思う長方形について新たにわかることを説明する。
- ・基石全部の個数を、 $3(n-2)+3$ という式で求めることができる理由を説明する。

設問数は16問です。

- ・個々の基礎的知識を連携させたり、論理的・発展的に考えたりすることに課題があります。
- ・無解答率が高くなっていることに課題があります。

【課題の見られる設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率	
数と式	6 (1)	考察の対象を捉える	基石を並べて正三角形の形をつくったときの個数を求める	44.3%	48.6%	52.5%
資料の活用	5 (1)	情報を適切に読み取る	横の長さが与えられた長方形が含まれる階級を書く	61.3%	65.2%	69.0%

【無答率の高い設問例】

領域	出題の趣旨	設問	石狩市		全道		全国		
			正答率	無答率	正答率	無答率	正答率	無答率	
関数	3 (2)	数量（関数）	表やグラフを用いて、水温が80℃になるまでにかかる時間を求める方法を説明	27.3%	38.7%	29.4%	37.3%	31.7%	34.1%

〈指導の改善にあたって〉

- ・基礎的知識の充実、数式等の意味・成り立ち、筋道を立てて考えることなど、課題を整理・確認し繰り返し指導・確認する必要があります。
- ・資料を読み取り、数理的に考察することを位置付けた学習に取り組む必要があります。
- ・日常生活の中から数学的な考え方が導き出せるように取り組む必要があります。
- ・最後まで粘り強く取り組む姿勢の大切さを指導する必要があります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の55.3%、全国の55.5%に対して石狩市は53.8%で全道より1.5%、全国より1.7%低くなっています。
- ・「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の79.0%、全国の80.5%に対して石狩市は79.0%で、全道と同様、全国より1.5%低くなっています。
- ・「数学の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の69.3%、全国の70.5%に対して石狩市は69.8%と、全道より0.5%高く、全国より0.7%低くなっています。
- ・「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の90.4%、全国の90.8%に対して石狩市は90.0%で、全道・全国と同様です。多くの生徒は「数学ができるようになりたい」との願望をもっていることがわかります。
- ・「問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定的な回答は全道・全国とほぼ同様の結果です。
- ・数学に関する質問では、全般的に全道・全国と同様の傾向が多くみられ、低い場合でも差はわずかです。